

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成26年11月14日

【四半期会計期間】 第33期第2四半期(自 平成26年7月1日 至 平成26年9月30日)

【会社名】 株式会社免疫生物研究所

【英訳名】 Immuno-Biological Laboratories Co.,Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 清藤 勉

【本店の所在の場所】 群馬県藤岡市中字東田1091番地1

【電話番号】 0274-22-2889 (代表)

【事務連絡者氏名】 取締役事業統括推進本部長 中川 正人

【最寄りの連絡場所】 群馬県藤岡市中字東田1091番地1

【電話番号】 0274-22-2889 (代表)

【事務連絡者氏名】 取締役事業統括推進本部長 中川 正人

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第32期 第2四半期 連結累計期間	第33期 第2四半期 連結累計期間	第32期
会計期間	自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日	自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日	自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日
売上高 (千円)	245,026	285,046	670,428
経常損失 () (千円)	125,235	83,962	99,758
四半期(当期)純損失 () (千円)	139,401	81,825	114,693
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	131,254	81,386	112,659
純資産額 (千円)	2,316,016	2,713,350	2,794,736
総資産額 (千円)	2,644,696	3,234,716	3,147,094
1株当たり四半期(当期)純損失金額 () (円)	22.44	12.49	17.99
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	87.1	83.2	87.9
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	17,688	2,762	12,161
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	71,766	180,398	136,903
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	53,903	204,975	464,540
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高 (千円)	759,042	1,162,124	1,135,786

回次	第32期 第2四半期 連結会計期間	第33期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成25年7月1日 至 平成25年9月30日	自 平成26年7月1日 至 平成26年9月30日
1株当たり四半期純損失金額 () (円)	12.42	2.91

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 第32期第2四半期連結累計期間、第33期第2四半期連結累計期間及び第32期連結会計年度の潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期(当期)純損失金額であるため記載しておりません。
4. 平成25年10月1日付で普通株式1株につき普通株式10株の割合で株式分割を行っております。これにより第32期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、第32期第2四半期連結累計期間及び第32期連結会計年度の1株当たり四半期(当期)純損失金額を算定しております。

2 【事業の内容】

当社グループは、遺伝子組換えカイコにより生産したヒトコラーゲンである化粧品原料「ネオシルク - ヒトコラーゲン」を含有した化粧品を量販店へ販売する株式会社エムコスメティックスの第三者割当増資を引き受け、前連結会計年度に連結子会社としました。

当第2四半期連結累計期間においては、販売体制が整ったことから、前連結会計年度に「遺伝子組換えカイコ事業」に含めていた、上記子会社が展開しております化粧品に関連する事業を「化粧品関連事業」としてセグメントを独立することとしました。

よって、当社グループが行う事業は、「診断・試薬事業」「遺伝子組換えカイコ事業」「検査事業」「化粧品関連事業」の4つのセグメントとなります。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社が判断したものであります。

(1) 経営成績の分析

当第2四半期連結累計期間における、当社グループのセグメント別の業績は、下記のとおりとなりました。

・診断・試薬事業

研究用関連においては、主力の受託サービス及び国内外のEIA測定キットや抗体の自社製品の販売が増加傾向にあります。前年度末の駆け込み需要の影響等により減少した売上高を補うことが出来ず、売上高が減少いたしました。その結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は171,557千円（前年同期比5.2%減）となりました。

医薬用関連においては、当年度より市場を独占している、自社製造の動物用体外診断用医薬品の牛海綿状脳症測定キットの販売が、順調に推移し売上高が増加いたしました。その結果、売上高は46,394千円（前年同期比132.6%増）となりました。なお、当事業は、新規治療薬シーズの研究開発や体外診断用医薬品に向けた製品開発を進めております。

その結果、研究用関連、医薬用関連を合わせた当セグメントの売上高は217,951千円（前年同期比8.5%増）、営業損失は33,247千円（前年同期は87,878千円の営業損失）となりました。

・遺伝子組換えカイコ事業

遺伝子組換えカイコ事業においては、アステラス製薬株式会社や有限会社生物資源研究所と共同研究を進めているフィブリノゲンやインフルエンザワクチン等の開発ターゲットを、医薬品原料として生産するためのGMP対応を踏まえたパイロットプラントの建設を計画しております。また、平成26年7月10日「アステラス製薬株式会社との共同研究の進捗状況についてのお知らせ」でお知らせしておりますが、ヒト型フィブリノゲンを医薬品原料として開発するための次期契約締結へ向け、現在の共同研究を着実に進めております。そのほかの共同研究等につきましても順調に進行しております。その結果、当セグメントの売上高は13,860千円（前年同期比175.3%増）、営業損失は37,369千円（前年同期は41,225千円の営業損失）となりました。なお、当セグメントにおいては、将来に向けた重点的な研究開発等を積極的に進めるために、専門分野の人材を採用し、医薬品原料の生産拠点及び付属設備への投資を行い、生産体制の構築を進めてまいります。

・検査事業

検査事業においては、当社グループが所有する脂質代謝解析技術を利用した生活習慣病領域での創薬・研究支援に加え予防・診断支援やペットに対するコレステロールと中性脂肪の測定が出来る診断サービスなどの需要が増加しており、積極的に人材採用及び設備投資による先行投資を実施し、売上拡大を目指しております。その結果、当セグメントの売上高は51,953千円（前年同期比33.1%増）、営業損失は19,273千円（前年同期は5,589千円の営業利益）となりました。

・化粧品関連事業

化粧品関連事業においては、「すべての化粧品にネオシルク - ヒトコラーゲン」をスローガンに掲げております。まずは、ネオシルク - ヒトコラーゲンの素晴らしさを消費者の皆様理解していただくために、量販店を中心として販売活動を行う株式会社エムコスメティックスにより、販売開始の準備を進めてまいりました。海外販売用及び量販店用の製品化が遅れておりましたが、第1四半期連結累計期間より本格的な販売活動を実施しており、バラエティーショップやテレビショッピングでの取り扱いに向けて具体的に進行しております。しかしながら、本格的な売上高への寄与につきましては、本年12月以降となる見込みです。その結果、当セグメントの売上高は1,533千円、営業損失は25,927千円となりました。

なお、当セグメントは第1四半期連結累計期間より新しいセグメントとしており、また前連結会計年度の第4四半期連結会計期間より連結子会社である株式会社エムコスメティックスの連結を開始しておりますので、前年同期の比較はありません。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は、285,046千円（前年同期比16.3%増）となりました。

利益面においては、共同研究開発における共同研究先からの負担金や様々な経費圧縮策を継続して実行しております。その結果114,197千円の営業損失（前年同期は123,513千円の営業損失）、経常収支については、助成金の収入があったこと等により83,962千円の経常損失（前年同期は125,235千円の経常損失）、81,825千円の四半期純損失（前年同期は139,401千円の四半期純損失）となりました。

(2) 財政状態の分析

(資産)

当第2四半期連結会計期間末における資産の残高は、前連結会計年度末比2.8%増の3,234,716千円となりました。この主な要因は次のとおりであります。

前連結会計年度第4四半期と比較して当第2四半期連結会計期間での売上の低調を受け受取手形及び売掛金の残高が42,702千円減少しております。一方増加要因は、株式の取得により投資有価証券が106,218千円増加、関係会社への貸付40,000千円等によりその他（投資その他の資産）が43,699千円増加したことによるものであります。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における負債の残高は、前連結会計年度末比48.0%増の521,365千円となりました。この主な要因は次のとおりであります。

銀行からの借入金の借換え及び新規借入等により1年内返済予定長期借入金を含めた長期借入金が205,017千円増加したこと等によるものであります。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産の残高は、前連結会計年度末比2.9%減の2,713,350千円となりました。この主な要因は四半期純損失の計上によるものであります。

(3) キャッシュ・フローの状況の分析

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）の残高は前連結会計年度末と比べ26,337千円増加し1,162,124千円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動により支出した資金は2,762千円（前年同期比14,926千円の減少）となりました。

この主な要因は、非資金項目である減価償却費の計上が46,039千円、売上債権の回収42,702千円等といった資金増加要因がありましたが、一方、資金減少要因として、事業活動が低調たつたことにより税金等調整前四半期純損失を84,047千円計上したことが大きな要因であります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動により支出した資金は180,398千円（前年同期比108,632千円の増加）となりました。

この主な要因は、投資有価証券を取得したことによる支出が100,800千円、関係会社への資金の貸付による支出が40,000千円、有形固定資産の取得による支出が31,474千円あったこと等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動により獲得した資金は204,975千円（前年同期比151,071千円の増加）となりました。

この主な要因は、銀行から資金を新規借り入れ及び借り換え等したため、長期借入金が205,017千円純増したこと等によるものであります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間の研究開発費の総額は68,961千円であります。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	20,000,000
計	20,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成26年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成26年11月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	6,547,590	6,547,590	東京証券取引所 JASDAQ (グロ-ス)	単元株式数100株 完全議決権株式であり、権利内 容に何ら限定のない当社におけ る標準となる株式
計	6,547,590	6,547,590		

(注) 提出日現在発行数には、平成26年11月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は、含まれておりません。

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成26年9月30日	-	6,547,590	-	1,846,099	-	878,479

(6) 【大株主の状況】

平成26年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式総数に対する 所有株式数の割合(%)
清藤 勉	群馬県高崎市	1,123,700	17.16
岩井化学薬品株式会社	東京都中央区日本橋本町3-2-10	200,000	3.05
栄研化学株式会社	東京都台東区台東4-19-9	125,000	1.90
株式会社東和銀行	群馬県前橋市本町2-12-6	100,000	1.52
日本証券金融株式会社	東京都中央区日本橋茅場町1-2-10	78,900	1.20
株式会社SBI証券	東京都港区六本木1-6-1	65,800	1.00
日本生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内1-6-6	64,000	0.97
小野寺 昭子	埼玉県越谷市	50,000	0.76
松井証券株式会社	東京都千代田区麹町1-4	48,800	0.74
バンク オブ ニューヨーク ジー シーエム クライアント アカウンツ イー アイエルエム (常任代理人 株式会社三菱東京U FJ銀行)	MERRILL LYNCH FINANCIAL CENTRE 2 KING EDWARD STREET LONDON EC1A 1HQ U.K. (東京都千代田区丸の内2-7-1)	36,100	0.55
計	-	1,892,300	28.90

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成26年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 100		
完全議決権株式(その他)	普通株式 6,543,600	65,436	単元株式数100株 権利内容に何ら限定のない当社におけ る標準となる株式
単元未満株式	普通株式 3,890		
発行済株式総数	6,547,590		
総株主の議決権		65,436	

(注) 「単元未満株式」には自己株式が90株含まれております。

【自己株式等】

平成26年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
(自己所有株式) 株式会社免疫生物研究所	群馬県藤岡市中字東田 1091番地1	100	-	100	0.00
計	-	100	-	100	0.00

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(平成26年7月1日から平成26年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成26年4月1日から平成26年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
(単位：千円)		
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,194,909	1,227,247
受取手形及び売掛金	178,148	135,446
商品及び製品	73,428	68,124
仕掛品	125,497	123,649
原材料及び貯蔵品	83,421	89,868
その他	32,302	30,739
流動資産合計	1,687,708	1,675,075
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	506,611	490,336
機械装置及び運搬具（純額）	21,573	19,582
土地	362,687	362,687
その他（純額）	91,047	76,459
有形固定資産合計	981,920	949,066
無形固定資産		
のれん	183,958	177,786
その他	35,664	25,028
無形固定資産合計	219,623	202,814
投資その他の資産		
投資有価証券	213,338	319,556
その他	44,504	88,203
投資その他の資産合計	257,842	407,759
固定資産合計	1,459,386	1,559,640
資産合計	3,147,094	3,234,716
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	17,065	12,638
短期借入金	100,000	100,000
1年内返済予定の長期借入金	46,644	86,688
その他	110,519	77,648
流動負債合計	274,228	276,975
固定負債		
長期借入金	77,271	242,244
その他	857	2,146
固定負債合計	78,128	244,390
負債合計	352,357	521,365
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,846,099	1,846,099
資本剰余金	878,479	878,479
利益剰余金	50,393	31,431
自己株式	73	73
株主資本合計	2,774,898	2,693,073
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	7,344	1,926
その他の包括利益累計額合計	7,344	1,926
新株予約権	7,551	7,551
少数株主持分	19,630	14,651
純資産合計	2,794,736	2,713,350
負債純資産合計	3,147,094	3,234,716

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

	(単位：千円)	
	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
売上高	245,026	285,046
売上原価	125,367	151,725
売上総利益	119,658	133,320
販売費及び一般管理費	243,172	247,518
営業損失()	123,513	114,197
営業外収益		
受取利息	1,081	3,061
助成金収入	3,617	15,000
為替差益	177	4,481
受取保険金	3,039	-
受取補償金	-	7,690
その他	661	1,078
営業外収益合計	8,576	31,311
営業外費用		
支払利息	1,182	1,072
新株発行費	9,116	-
その他	-	4
営業外費用合計	10,299	1,076
経常損失()	125,235	83,962
特別損失		
投資有価証券売却損	12,011	-
固定資産売却損	171	-
固定資産除却損	-	85
特別損失合計	12,182	85
税金等調整前四半期純損失()	137,417	84,047
法人税、住民税及び事業税	1,983	2,756
法人税等合計	1,983	2,756
少数株主損益調整前四半期純損失()	139,401	86,804
少数株主損失()	-	4,978
四半期純損失()	139,401	81,825

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

	(単位：千円)	
	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純損失()	139,401	86,804
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	8,146	5,418
その他の包括利益合計	8,146	5,418
四半期包括利益	131,254	81,386
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	131,254	76,407
少数株主に係る四半期包括利益	-	4,978

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失()	137,417	84,047
減価償却費	42,351	46,039
のれん償却額	2,272	6,172
受取利息及び受取配当金	1,081	3,061
支払利息	1,182	1,072
為替差損益(は益)	898	4,523
新株発行費	9,116	-
有形固定資産売却損益(は益)	171	-
投資有価証券売却損益(は益)	12,011	-
売上債権の増減額(は増加)	111,298	42,702
たな卸資産の増減額(は増加)	10,310	705
仕入債務の増減額(は減少)	6,150	4,426
その他	28,880	3,872
小計	6,336	3,238
利息及び配当金の受取額	716	3,132
利息の支払額	1,295	1,115
法人税等の支払額	10,773	1,540
営業活動によるキャッシュ・フロー	17,688	2,762
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金等の預入による支出	9,000	9,000
有形固定資産の取得による支出	45,587	31,474
無形固定資産の取得による支出	927	1,517
投資有価証券の売却による収入	182,577	-
投資有価証券の償還による収入	100,000	-
投資有価証券の取得による支出	180,000	100,800
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	2 120,875	-
関係会社貸付けによる支出	-	40,000
貸付金の回収による収入	1,998	2,367
その他	50	25
投資活動によるキャッシュ・フロー	71,766	180,398
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	-	300,000
長期借入金の返済による支出	25,542	94,983
新株予約権の発行による収入	7,506	-
新株予約権の行使による株式の発行による収入	103,209	-
配当金の支払額	29,795	41
その他	1,474	-
財務活動によるキャッシュ・フロー	53,903	204,975
現金及び現金同等物に係る換算差額	898	4,523
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	34,652	26,337
現金及び現金同等物の期首残高	793,694	1,135,786
現金及び現金同等物の四半期末残高	1 759,042	1 1,162,124

【注記事項】

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費用及び金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)
賞与引当金繰入額	4,462 千円	4,396 千円
研究開発費	89,291 "	68,961 "

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)
現金及び預金勘定	811,156 千円	1,227,247 千円
預入期間が3か月を超える定期預金	52,114 "	65,123 "
現金及び現金同等物	759,042 "	1,162,124 "

2 株式の取得等により新たに連結子会社となった会社の資産及び負債の内訳

前第2四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)

株式の取得等により新たに株式会社スカイライト・バイオテックを連結したことに伴う連結開始時の資産及び負債の内訳ならびに株式会社スカイライト・バイオテック株式取得のための支出(純額)との関係は次のとおりであります。

流動資産	76,966千円
固定資産	22,142 "
のれん	181,830 "
流動負債	11,096 "
株式会社スカイライト・バイオテック株式の取得価額	269,843 "
株式交換による株式会社スカイライト・バイオテック株式の取得価額	112,436 "
株式会社スカイライト・バイオテックの現金及び現金同等物	36,530 "
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	120,875 "

当第2四半期連結累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)

該当事項はありません。

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年6月27日 定時株主総会	普通株式	30,819	50	平成25年3月31日	平成25年6月28日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			
	診断・試薬事業	遺伝子組換え カイコ事業	検査事業	合計
売上高				
外部顧客への売上高	200,951	5,034	39,040	245,026
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	-
計	200,951	5,034	39,040	245,026
セグメント利益又は損失()	87,878	41,225	5,589	123,513

(注) セグメント利益又は損失は四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報(のれんの金額の重要な変動)

第1四半期連結累計期間より、株式会社スカイライト・バイオテックを連結子会社といたしました。当該事業によるのれんの増加額は、「検査事業」セグメントにおいて、181,830千円であります。

当第2四半期連結累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額
	診断・試薬 事業	遺伝子組換え カイコ事業	検査事業	化粧品関連 事業	合計		
売上高							
外部顧客への売上高	217,879	13,860	51,773	1,533	285,046	-	285,046
セグメント間の 内部売上高又は振替高	72	-	180	-	252	252	-
計	217,951	13,860	51,953	1,533	285,298	252	285,046
セグメント損失()	33,247	37,369	19,273	25,927	115,817	1,620	114,197

(注) 1. セグメント損失は四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. セグメント損失の調整額1,620千円には、セグメント間取引消去1,620千円が含まれております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結累計期間より、従来「遺伝子組換えカイコ事業」に含まれていた「化粧品関連事業」について、販売体制が整ったため報告セグメントとして記載する方法に変更しております。

なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報については、前連結会計年度の第4四半期連結会計期間より「化粧品関連事業」を開始しておりますので、実績に変更はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
1株当たり四半期純損失金額()	22円44銭	12円49銭
(算定上の基礎)		
四半期純損失金額()(千円)	139,401	81,825
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純損失金額()(千円)	139,401	81,825
普通株式の期中平均株式数(株)	6,211,288	6,547,400

(注)1.平成25年10月1日付で普通株式1株につき普通株式10株の割合で株式分割を行っております。これにより第32期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、前第2四半期連結累計期間の1株当たり四半期純損失金額を算定しております。

2.潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失金額であるため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年11月14日

株式会社免疫生物研究所
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	飯塚正貴印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	小出検次印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社免疫生物研究所の平成26年4月1日から平成27年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(平成26年7月1日から平成26年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成26年4月1日から平成26年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社免疫生物研究所及び連結子会社の平成26年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。